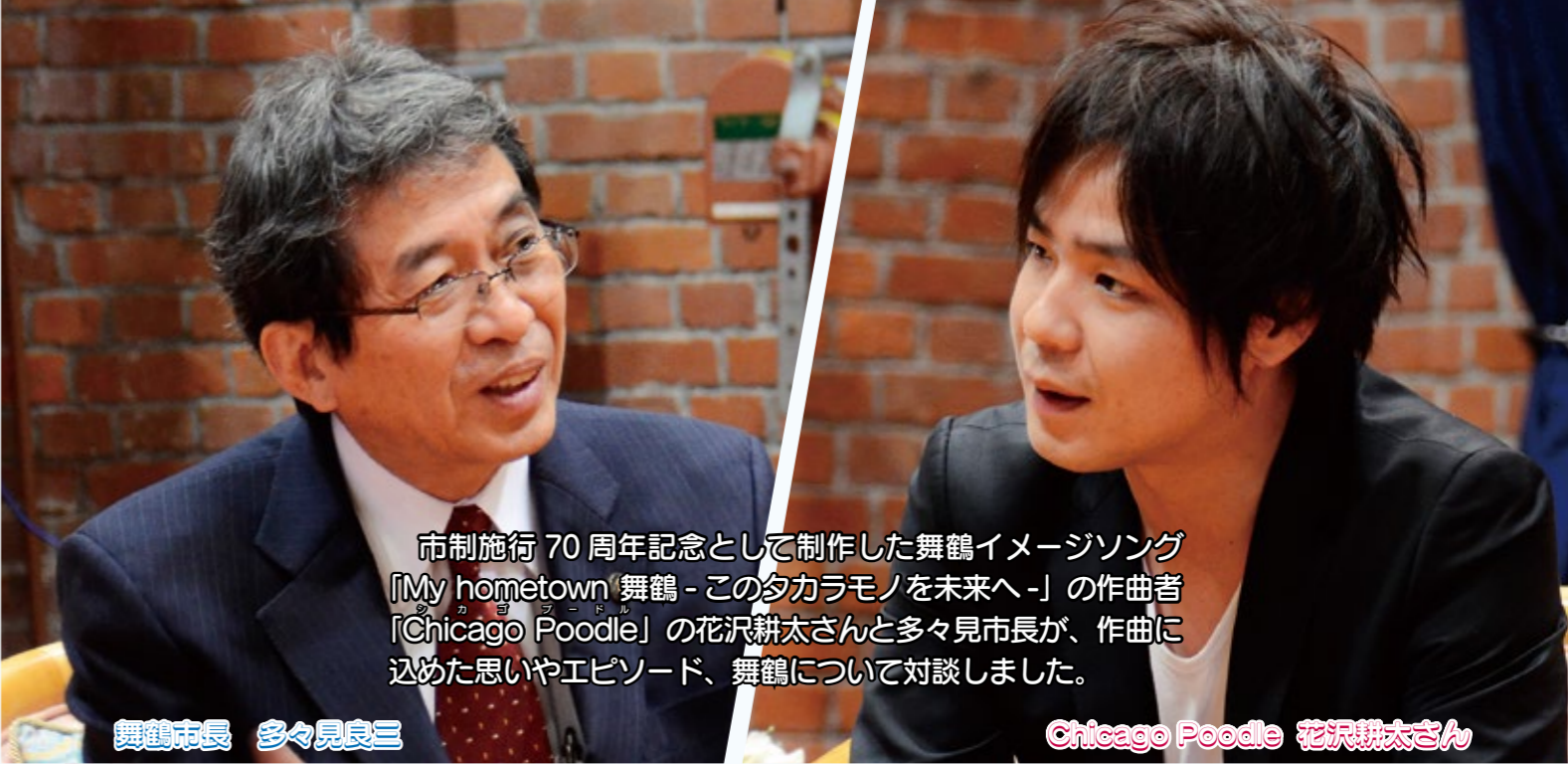


舞鶴イメージソング完成記念 特別対談



市制施行 70 周年記念として制作した舞鶴イメージソング『My hometown 舞鶴 - この夕カラモノを未来へ -』の作曲家『Chicago Poodle』の花沢耕太さんと多々見市長が、作曲に込めた思いやエピソード、舞鶴について対談しました。

舞鶴市長 多々見良三

Chicago Poodle 花沢耕太さん

作曲と舞鶴

市長 今回、作曲をお願いするまで舞鶴をご存じでしたか？

花沢さん 父親が建築の仕事をしていて、舞鶴で仕事をしていたことがあったので、話はよく聞いていました。

市長 聞いておられたイメージと初披露で5月に訪れたときや今回、市内を回られて、イメージはどうでしたか？

花沢さん 五老スカイタワーに登ったときに、最初に思ったのは、東と西に市街地が分かれている感じがしたことです。

市長 そのとおり。地理的には、東西に市街地があるまちですが、私は市長になって以来ずっと「舞鶴は一つだ」と言ってきました。

そして「市制施行70周年記念事業 検討市民会議」の提言を受け、「歌」でみんなが一つになるよう、みんなが歌おうと思いい、舞鶴のイメージソングを作ることにしました。「歌」は平和な時代の絆づくり非常に役に立つと思います。このイメージソングは、それぞれの地域の良さを大切にしながら、「舞鶴は一つだ」という思いが伝わります。



鶴は「一つだ」という思いが伝わる仕上がりになっていると思っておりますが、作られた側から見てどうですか？

花沢さん フレーズを募られているので、市民の方からいただいたフレーズという意識があるんですよ。それぞれの地域を表す言葉もちゃんとしていて、歌っているのが、純粋なものだと思うので、曲をつくる上では、みんなが口ずさめるような分かりやすいメロディーにしようという心がけがありました。例えば、最後の「My Hometown」で歌っているところなんかは、みんなで合唱できるので、そこで楽曲が懸け橋になって、みんなが一つになれるんじゃないかなと思いますね。



市長 作曲されるときに対象とする年齢層というのはありましたか？

花沢さん ここをターゲットにというのは全くなかったんです。幅広い年代の人に、それぞれ小

さい子からおじいちゃんおばあちゃんまで聴いてもらえるような曲にしたいっていうのはありましたね。そのために、サビの頭の部分には、みんなが普段口にする、「ありがとう」っていうフレーズをもってくる。そしてそこに良いメロディーを乗せるっていうのを心がけました。そうすることで、幅広い年代の人がこの音楽を聴いて共感してくれるんじゃないかなという思いがありました。

市長 小さな子もすごく楽しく歌いますし、70歳を超えた方にもすごくいい歌ですねと言われます。幅広い市民に受け入れられていると感じていて、本当に感謝しています。

歌の作り方として、曲が先で後に詞を付けるのがやりやすいのか、詞をもらってから曲をつけるのどちらがやりやすいですか？

花沢さん 僕は曲が先です。ただ、この曲に関しては曲から作ってんですけど、詞を見て、そこでもう一回曲を変えたり、難しいところを簡単にしたり、歌いやすく、口ずさみやすいっていうのが、僕の中のひとつの

テーマでしたから。

市長 普段はシカゴポードルとして歌うための曲を作られていると思いますが、今回のように、ぜひ作ってほしいと、依頼されることはあるんですか？

花沢さん 以前、ラジオ局の企画で岡山のある町の曲を作ってくださいというのがあったんですが、今回のような作曲依頼は初めてだったので、まず率直に嬉しかったんです。残るものを作りたいという気持ちですごく



思ったんですよ。即席じゃないで、言葉もメロディーも吟味して、何十年、何百年残っていくものを作りたいという気持ちですごくありました。

市長 すべてに気配りされて全体を作られたと思いますが、ここが一番自分では気に入っているというパートはありますか？

花沢さん やっぱサビの「ありがとう」のところですね。「ありがとう」に当てはまるメロディーをかなり考えたので。例えばサビの部分に、わずか1秒2秒の世界なんですけど、1日2

日くらい費やすこともあります。芸術というのは、それでやると残るが残らないかになってくると僕は思っていますよ。

舞鶴でのライブを終えて

市長 ここ（市政記念館）でライブされてイメージソングを歌われたとき「Yeah!ありがとう」のところ、「さあみなさん歌いましょう」と言っておられましたね。

花沢さん みんなが「Yeah!」のところを歌って、僕が「ありがとう」と合いの手を入れて一緒に歌っている様子が頭の中に浮かんだんですよ。みんなが僕と

共演、シカゴポードルと共演してくれと思う。実際、そのとおりに一緒に歌って、コーポレーションしている感じとか、一体感がありませんでした。

市長 赤れんがの中の響きというのは、独特の、すごくマッチする響きがあると思いましたがいかがでしたか？



市長 今回の赤れんが2号棟だと、精一杯入って200人。隣の赤れんが5号棟なら相当入れるんですけど。

花沢さん ぜひライブしたいですね。

市長 たくさんのファンの方がおられますし、ぜひ、カラオケでこの歌を歌いたいなと思っていて、職員にできないのかと頼んでいるんですが、そのあたりどうですか？

花沢さん 僕が「Yeah」と歌いますので、市長は「Yeah」と歌います。

て合いの手（笑）。

広がっていく歌

市長 このイメージソングは、歌詞を見ると舞鶴、「由良川」と書かれています。また「かわ」と歌われていて、全国に響く歌ではないかと思えます。歌詞を見ると「由良川」と書いてあって、「どこの川？」舞鶴にあるのか」と。いろいろところでこの歌が広がれば、舞鶴を知ってもらえます。舞鶴は、たくさんの「夕カラモノ」があるまちです。舞鶴市の誇れる部分

が歌詞の中にちりばめられていますので、いろんな人に聴いていただいて、一度舞鶴に行ってみようかなと思ってもらえる歌だと思えます。

また舞鶴市民みんなで歌って、将来、子どもたちが市外へ出て、この歌が流れるとふるさと舞鶴を思い出します。そういった感じで、まさにアイデンティティを確認するっていうか、そういう歌にこれからどんどん盛り上げられたいと思います。

市長 ぜひ、また舞鶴でライブをしていただいで、最後にこの舞鶴の歌を歌っていただければと思います。その時には、



合いの手の入れ方を私も練習しておきますので、「Yeah」のコーラス部分で、みんなで盛り上げたいと思います。

花沢さん いいですね。

市長 みんなが歌えるように、各小・中学校、自治会などいろいろなところにCDを配っていいことと思っています。イベントの時に流してもらえれば、これからの歌がどんどん広がるようにしていきますので、またそうした機会を。

市長 ほかの地域のライブでもこのイメージソングを演奏していただけますか？

花沢さん 僕らもこの曲を大事に歌っていきたくて、ここに悪い気持ちはありません。そこに悪い気持ちはないです。そこを大切に、音楽を通して人と人が出会っていくか、そういう意味では、「舞